

## 事例紹介

### 北海道東川町立 東川第二小学校

## iPadmini + ドリルは 複式学級の強い味方！



iPadminiを導入している東川第二小学校では、持ち運びの手軽さを活かして複式学級での指導や校外学習など様々な場面にICTを取り入れています。

### 複式学級 iPadmini + ドリルで、すきま時間が活きる！

東川第二小学校では、パナソニック教育財団の助成金を使ってiPadminiを15台導入しています。iPadminiに決めた背景やeライブラリとの相性について、岸本研二先生にお話を伺いました。

#### ● iPadminiの決め手は「持ち運びやすさ」

タブレット端末を選ぶ際に一番の決め手となったのは、「持ち運びの便利さ」。小さく軽く、児童にも手軽に持ち運べることからiPadminiを導入されたそうです。現在は主にドリルで学習したり、動画や写真を見たり撮ったりする場面で利用しています。

15台と台数が限られているため、複式学級がある5・6年生の教室に常設し、高学年の授業の中ですくんに使えるようにしています。



■机の上にあっても気にならない大きさ

#### ● 「短時間ドリル」の積み重ねが、学力に。

複式学級では、片方の学年に指導を行う間、もう一方の学年の児童がiPadminiでeライブラリのドリルに取り組むスタイルで算数の授業を行っています。

「eライブラリとiPadminiがあれば、複式学級の指導の中でふと余ってしまった3～4分を有効に使うことができます。学力向上のためにはこうした時間の積み重ねがとても大切なのです」と岸本先生。



#### 情報担当 岸本 研二先生のお話

以前は複式学級で急に時間が空いてしまったときのために各学年のプリントを準備していましたが、eライブラリを取り入れてからは、いつでもドリルに取り組めるため、教材準備の負担が軽減されました。

学習履歴が残るため、直接指導できない間の結果も把握できるところもよいと感じています。現在は算数を中心に活用していますが、今後は理科でも使ってみたいです。



5・6年生の複式学級での算数の授業の様子をご紹介します。

● 無駄のない授業を支える、緻密な指導案

この日の授業では、5年生は「割合」のまとめ、6年生は「いろいろな単位」の導入を行いました。岸本先生は毎回丁寧な指導案を作成し、**6年生の導入・展開の間に5年生の演習・定着のドリルタイムを設ける**など、時間の無駄がなく、かつテンポのよい授業を実現しています。

5年 児童の活動	段階	段階	6年 児童の活動
○前時のふり返り～「乗車率 100%以上」 ○チラシを見せる。「○割引」っていくら？ ■「歩合」の言い方や表し方を調べよう。 ○野球の問題を読んで、勝った試合の割合を百分率で求める。 ○『歩合』について知り、ノートにまとめていく。 ○野球の勝った試合を歩合で答える。	つかむ	深める	★前単元「資料の調べ方」をeライブラリで復習する。
○『歩合』の表し方を各自ノートにまとめる。 ○『歩合』の表し方の問題に挑戦する。	考える	つかむ	○新しい単元と出会う。「いろいろな単位」 ○今まで学習してきた、身のまわりにある単位を思い出し、書き出す。 ○単位を交流し、共通点を考える。…cやK ■長さの単位の仕組みを調べよう。
★時間が余ったら、eライブラリで復習する。			
○『歩合』の問題の答え合わせをする。 ○「割合」や『歩合』についてまとめる。 ■割合の表し方は、もとにする量を100%とする百分率や10割とする『歩合』がある。 ○P35 練習1・2を取り組む。⇒答え合わせ	まとめる	考える	○表を書いて、1Km、1cm、1mmをあてはまるところに書き込む。 ○表を付けたし、10倍100倍、1/10・1/100の大きさを表す言葉を書く。⇒全員で交流 ○単位は、どのようにできているかまとめる。
★eライブラリ「割合」の問題で復習する。	ふり返る	まとめる	■長さの単位は「m」に1000倍や1/100を表す語が付けられてできている。 ○P55☆1のなしかめに挑戦する。⇒かつ
○本時の学習でわかったことをまとめる。	評	評	★時間が余ったら、eライブラリで復習。 ○本時の学習でわかったことをまとめる。

今回の授業の  
学習指導案（略案）



■導入・展開には電子黒板（右）、演習・定着にはiPadmini（左）と機器を使い分けています。



■ドリルの音量は「2めもり目」がルール。

● ドリルタイムは、問題に集中！

岸本先生のドリル開始のかけ声と共に、児童は机の上のiPadminiをさっと開いてeライブラリにログインし、指定された単元のドリルに取り組みます。

iPadminiもドリルも日常の教具として浸透しているため、児童は脱線することなく、黙々と集中して学習していました。また、ドリルタイム以外はふたを閉じてiPadminiには一切手を触れません。こうしたはじめのある態度の背景には、日常の徹底したマナー指導が大きく影響しているそうです。

● 思わぬ嬉しい効果も…

日々のこうした授業を通して、児童には約10分という短時間でドリルに取り組む習慣がついているため、ドリルタイム内は素早く計算して1問でも多く解こうとする姿が見られました。

実際、このドリル学習を授業に取り入れてから、問題を解く速さが上がったという効果もあったそうです。「以前は学力調査テストで制限時間内に全問解くことができない児童もいたので、思わぬ嬉しい効果ですね」と岸本先生は笑顔で児童を見守っていました。

